

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	2	学校名	静岡県立松崎高等学校	校長名	矢野 あおい
------	---	-----	------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	確かな学力を身に付け、社会を生き抜く力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業に興味をもって取り組む生徒が80%以上 授業が分かる生徒が80%以上 年2回以上の授業参観 授業アンケートの実施 年間を通した各教科の中高交流 学習指導要領に則り、授業改善に取り組んだ教員が90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 68.6% 78.1% 2回実施 実施 中高交流実施 100% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業に興味を持って取り組む生徒は対前年比-4.4%。授業が分かる生徒は対前年比-0.8%。より生徒の学習意欲を喚起させる工夫が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 授業以外の学習時間が平均して1日1時間以上の生徒 特進70%以上 総合50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 全体 27.0% 特進 41.3% 総合 20.2% 	C	<ul style="list-style-type: none"> 対前年比-13.4%。昨年度の数値目標上昇に影響があったと推測される学習時間の掲示と記録を継続したが、今年度は減少した。勉学意識を高める手立てが必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の時間に集中して読書をしている生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 75.2% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年から目標を変えたこともあり、ある程度達成できた。生徒が集中できるように教員の配慮も必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 円滑に実施できるように配信教諭との連携を密に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 受信側の教員と配信側の教員が連携を密にした。
イ	道徳観を育成し、高い人権意識と社会人としての良識を培う。	<ul style="list-style-type: none"> 年間出席率99%以上 年間遅刻総数120回以下 清掃に集中して取り組む生徒が90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 97.1% 125回 86.1% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間出席率と年間遅刻総数に関しては、集団生活に強いストレスを感じ、メンタルヘルスの不調を訴える生徒が増加していることと関連が深い。外部の専門的な機関と連携を図り、課題解決・未然防止教育を充実させることができたのは成果である。今後は生徒の精神的なしなやかさを育むために、発達支持的生徒指導を推進する。 出席率対前年比-0.9%。身体のみならず、心の健康への対策を生徒課（保健）と連携する必要がある。

				<ul style="list-style-type: none"> ・軽度の体調不良での欠席が目立つ。遅刻については特定の者の不注意によることが多いので、家庭と連携を図っていく。(1年) ・人間関係や精神的理由により、欠席がかさんだ生徒が複数名いる。面談や声掛けと、家庭や専門家との連携を継続していく。(2年) ・欠席の多い傾向のある生徒へのフォローができ改善傾向にはあった。試験前を中心に、軽度の体調不良でも大事をとっての欠席が多かった。(3年)
	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆松崎分校との交流活動において、両校生徒が協働する場面を増やす。 ・人権に関する情報を発信し、意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施 ・実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・両校の交流活動において、生徒や教職員と一緒に活動する場面が増えた。球技大会では、伊豆松崎分校が運営の中心となる競技もあり、両校生徒・教職員が同じ建物で共に生活する姿が自然な形となってきている。 ・日程調整等大きな問題はなかった。授業等細かな部分での交流を次年度よりできるとよい。 ・教職員への人権教育に関する伝達講習や県の人権啓発センター指導員による人権教育講座の開催、情報モラル講座、思春期講座、掲示板やポスターによる啓発活動など、年間を通じて定期的な人権に対する意識向上を図る取組を実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼できる先生がいると答える生徒が80%以上 ・自ら進んで挨拶できる生徒が90%以上 ・常に正しい服装の生徒が90%以上 ・学校が楽しいと感じる生徒が85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・77.4% ・87.6% ・91.2% ・84.7% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・対前年度比「信頼できる教員」-4.2、「進んで挨拶」-1.9、「正しい服装」-2.2、「学校が楽しい」+0.5という結果で、「学校が楽しい」以外の項目は前年度より数値が低下した。過去数年間でそれぞれの項目が高い数値で推移したため、目標数値を高くした経緯があるが、特に「信頼できる先生がいる」に関しては昨年度から数値が低下した幅が最も大き

				く、目標の数値も達成できなかったため、教員生徒間の関係づくりについて検討が必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・双獅祭等の学校行事を教職員と連携しながら、生徒会主体で組織的に運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数減少の中、地域社会の力を借りる等、生徒会執行部・各委員会が中心となり、生徒自身が自ら考え、企画・運営を行うことができた。 ・教職員の計画的で意識的な取り組みにより生徒が自ら考え、主体的に取り組む姿勢を育むことができた。 ・伊豆松崎分校との合同開催の行事では生徒会執行部や委員会の生徒が打ち合わせのため自然に伊豆松崎分校を訪れるという姿が見られた。 ・今後の生徒・教職員数の減少、キャンパス制への移行を踏まえると、現状維持は困難である。各行事の在り方や目的を検討し精選する必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を通して心身の成長を感じた（部活動を通して「生きる力」を身に付けたと思う）生徒80%以上 ・新体力テストで前年より記録を伸ばす生徒が75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・78.1% ・2・3年： 64.9%、 男子：77.8% 女子：47.5% が上昇 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・対前年度比-6.1。一昨年度から成果目標を変更し、数値が上昇した。結果や競技力・技術の向上を成果とするより、社会の一員として自身の生きる力の成長をどれだけ感じたかという在り方を充実させたい。 ・部活動の精選については継続して行う必要がある。キャンパス制への移行や中高一貫教育という資源を活用し生徒が活動する機会の損失や教職員の負担を少なくする在り方について継続して議論を続ける必要がある。 ・授業の雰囲気や士気の高い集団ほど数値が高かった。授業数が2年生のほうが一単位多いが、授業始めのランニングの取り組み意欲の差がそのまま数値に出ている。2年生男子は全員が上昇した。3年生女子は半分が数値を落とした。生活指導の問題と考えられる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科及び眼科の疾病治癒率が前年より上昇する。 ・朝食摂取率が100% ・毎朝の健康観察を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科 23.4% (R6 20.0%) 眼科 36.1% (R6 28.6%) ・82.5% (R6 86.3%) ・実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・治療率は両科ともに昨年度より上昇した。学年間でも受診率に差がある。今後は集団別、個別に工夫して呼びかけを行っていく必要がある。 ・一昨年から毎年減少している。10月に実施した調査では特進95.2%、総合89.7%。学習意欲の向上や精神面の安定にも関係するため、摂取率の向上は今後の課題である。 ・全HRで毎朝実施した。出席している生徒の健康観察も同時に行い、感染症予防や生徒支援を強化していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心の問題に対してSC、学年、課、担任の間で情報を共有し、チームで支援する。 ・1分間カウンセリングを年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施 ・2回実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・利用回数が増加した。継続利用する生徒もおり、教育相談の必要性が高まっている。学年主任や担任もフィードバックに参加するなど、教員との連携も増やしていきたい。
ウ	<p>キャリア教育を通じて、郷土に貢献し、社会の発展に寄与する人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内定率100% ・進路目標を確立(達成)できた生徒が 1年生70%以上 2年生80%以上 3年生90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・100% ・全体73% 1年60% 2年61% 3年93% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成できているものの、地元企業への就職率が低いいため、生徒の希望とどのようにリンクさせるかが課題である。 ・朝の細かい時間を使い、進路調べを実施している。今後は担任との面談等を通して現状把握と支援が必要である。(1年) ・進路研修、夏季進路学習、面談など、昨年度に比べ進路を考える機会を増やせた。一方、生徒にうまく西豆学と進路学習を、関連付けさせられなかった。(2年) ・進路決定に向け集中して取り組むことができた。夏休みの三者面談までに、担任が面談を通し、最初の出願先を設定することでスムーズに動き出せた。(3年)
	<ul style="list-style-type: none"> ・進路研修、進路ガイダンス等において事前、事後の指導を徹底する。 ・勤労観・職業観が深まった生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施 ・73.5% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の割合が昨年よりも減少している。就職ガイダンスもまだ2回目であるため、様々な模索し、生徒のためになるような機会にしたい。 ・学年の割合は70.0%。直接的

					<p>な進路指導の機会が他学年よりも少ないため、キャリア教育の視点から西豆学やLHRを幅広く捉えていきたい。(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年 75.0%。直接的、具体的な進路学習だけをキャリア学習と捉えている傾向がある。学校行事や探究活動、ボランティア活動等の課外活動を、自己理解につなげていく工夫をしたい。(2年) ・学年の割合は72.8%。ガイダンスや進路研修で自身の進路観を考えることよりも、決定することに注力することとなった。キャリア教育と進路決定の連動の強化を図りたい。(3年)
エ	<p>4校連携委員会を通じて、将来的な学校間連携の在り方を方向づける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の具体的な課題を共有する。 ・連携することで解決できるものを検討する。 ・賀茂地区探究コンソーシアム構築に向けて、4校で連携した活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施 ・実施 ・実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会で具体的な課題を共有することができた。 ・連携、交流できそうな行事等について検討できた。 ・「賀茂ジモト大学」などの企画・実施を通して一定の成果が得られた一方、参加者数には課題も残った。今後は、参加者を増やすための工夫を検討したい。
オ	<p>地域と連携し、連携型中高一貫教育を発展的に推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高での定期的な意見交換を行う。 ・組織的で系統だった新しい「西豆学」の運用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施 ・実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫の特徴を活かしたキャリア教育の実施とは何か、具体的に考えていきたい。 ・中高連携は活動の焦点化を行い、有機的に交流ができていく。伊豆松崎分校と同じく、より手軽な交流ができないか模索していきたい。 ・探究の能力向上に標準を合わせ、段階的で系統だったものができた。(1年) ・賀茂ジモト大学や全国の小規模校、大学生との交流など、一段階上の西豆学を実施できた。自ら地域に出る、地域を活用する生徒が少なかったことが課題である。(2年)
		<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議、運営委員会、各教科部会等を開催し、事業を円滑に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3回ずつ実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各会議等を計画通り開催し、事業の進捗状況等を共有できた。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域への発信を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「西豆の教育」を3月に発行 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町の広報やSNSでの発信を行った。「西豆の教育」は3月に発行予定である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページ・SNS等の更新を行事ごと適宜行う。 ・学校は積極的に情報発信を行っている」と答える生徒・保護者80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月1回ずつ実施 ・生徒57.8% 保護者48.9% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より達成状況が下がった。定期的な配信は行っているが、目を引くような情報発信を行う必要がある。
カ	<p>安心・安全に生活できる環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外、通学路等の点検を行う。 ・交通指導員の指導件数を年間10件以内にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施 ・3件 (R6：2件 R5：8件) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設や備品の状態や管理について、教職員の意識は向上している。教職員が異変を認知した際、迅速に報告を受け対応できた。 ・松崎町内の危険箇所について議論する会議に教員が参加し、危険箇所の把握や整備について意見交換することができた。 ・交通安全教室の振り返りでは生徒からも通学する際の危険箇所について情報収集した。 ・交通指導員の指導件数は過去2年間で減少したが、一部の生徒の危険な自転車乗車について外部から数件報告を受けた。 ・次年度施行される自転車に関する改正道路交通法等の生徒への周知を確実に行うとともに、生徒も参加する自転車マナー向上街頭指導を充実させ、自転車の安全な利用について啓発活動を継続して行う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の把握に努めるため、週1回以上の校内巡回を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・倒木の恐れがある樹木を伐採した。また、危険箇所の周知と経過観察を行った。
		<ul style="list-style-type: none"> ・校内避難訓練を3回実施する。 ・1回以上、地域防災訓練へ参加した生徒が90%以上 ・緊急時連絡メールを、全学年で90%以上の保護者及び生徒が登録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3回実施 ・47.4% ・93.7% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、1年生が自衛隊との防災講座を開催した。今後も自衛隊などによる防災講座を開催していきたい。 ・猛暑対策で9月に実施する自治体が少なく、学校行事や部活動と開催が重なり、参加者が少なくなった。
キ	<p>教職員の研修・研究活動を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回以上の全体研修会を実施する。 ・研修が業務改善の役に立 	<ul style="list-style-type: none"> ・2回実施 ・90.9% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習評価をテーマにした校内研修を年2回行い、学習評価の改善に努めた。

様式第3号

	推進し、資質能力と指導力の向上を図る。	ったと答える教員 70%以上			・約 90%の教員が自身の学習評価の参考になったと回答した。
		・年2回の教職員面談において、自己の課題と達成目標を確認する。	・5・1月実施	A	・各個人に応じた助言をした。 ・日常の声かけを心がけた。
ク	教職員自らが適切な勤務管理を行う。(ワークライフバランスの確立)	・月間の時間外業務が 80 時間以上になった場合には、自己診断チェックリストを提出し、必要に応じて管理職と面談を行う。 ・年休を取得しやすい環境づくりを行う。	・実施 ・実施	B	・月間 80 時間を超える時間外業務のある職員に対して、健康管理や時間外業務を減らす工夫についての助言をした。 ・積極的な年休等の取得について声かけを行った。
ケ	効率的で適正な事務を執行する。	・監査や検査等で指摘がないようにする。	・指摘 0 件	B	・監査、例月検査時に懸念点を確認し事務室内で情報共有を図っている。
		・窓口や電話での対応において、苦情がないようにする。	・苦情 0 件	A	・丁寧な対応を心掛けた。 ・伝達漏れを防ぐためにもチャット等を利用した。
		・事務室からの連絡や提出や書類については、職員、生徒及び保護者に分かりやすいものとする。	・分かりやすく情報提供することができた。	A	・資料を開かなくてもわかるよう提出期日、内容をメール本文に記載した。保護者宛のメールについても同様に対応した。